

受身・使役の言い方

森 田 良 行

I. 受身の発想、使役の発想

日本人はどのようなとき受身の言い方をするか、佐久間鼎博士は「現代日本語の表現と語法」の中で次のように述べている。

影響の波及といふ関係を現はす必要がないなら「水が(私に)かかったら…」といふやうに、自動詞「かかる」だけを用ゐてすむのですが、それは丁度「子どもが泣く」や「雨が降る」と表現するのと同様で、その動作・事象が自分に対してもつ生活感情的効果、自分がそれに対していづく關心は、ほとんど閑説されません。その効果、その關心を表現するところこそ、「受身」の形の意義が認められるのだといふべきでせう。(旧版 279 ページ)

事実、自己の立場に立つ言い方には受身表現が多い。「情にほだされる」などは常に受身の言い方で使われ、「情がほだす」の能動表現を持たない。日本語動詞には「ほだす」のような受動者側専用の語すらあるのである。しかも、この受け手の側は、強制的にそうさせられるという強い被役の立場ではない。おのずとそのような状態にさせられたという自発に近い受身である。このことは使役表現についても言えるのであって、命令的な強い使役よりも、誘発や使令(しむける)などの消極的使役が主流を占めているという事実からも伺える。どうも日本人は、自分が積極的にそうするといふ「為手」の立場よりは、本能的・自発的にそうなるよう持つていく「受け手」の立場に立つ言い方を好むらしい。これは日本人の伝統的な考え方・感じ方であって、このような日本人の心理構造は、日本の社会構造の

特異性と無縁ではないであろう。語研中級教科書の「デパート」という課に、次のような一節がある。

学生 「特売場も7階か8階ですね。」

部長 「そうです。エスカレーターで7階あたりまで行くあいだに、いろいろな商品が目について、購買欲をそそられるようにするのです。」

(I 37)

これは学生サークル「消費経済研究会」の学生が、デパートの部長と対談している場面である。ところで、ここを学習したある英語系の留学生が、この文章に対し、「これはデパートの部長が言っていることばだから、当然販売者側の立場として「購買欲をそそらせる」と使役で言うべきではないか、と質問してきた。この留学生の質問はしごくもったもなことであって、合理的な客観的表現を旨とする言語観念からすれば、当然使役表現をとるべきであろう。しかし、それは日本語の主観的で情感表現を重んずる発想を理解していないための疑問でもある。日本語は「購買欲をそそられる / 食欲をそそられる / 招かれざる客…」等、受け手の立場で表わす言い回しが多く、しかも、こちらの好むと好まざるとにかかわらず、他者の働きかけによって自然に、または本能的にそのような状態になる発想を尊重する。このような日本語の特性を理解していれば、先の疑問は起こらなかったであろう。日本語では、たとい「購買欲をそそらせる / 食欲をそそらせる…」と使役表現をとったとしても、それは他者にそのようにさせたという為手本位の使役ではなく、外界の事物によっておのずとおのれの欲望をふるいたたせてしまうという受け手本位の使役である¹⁾。自己の意志いかんにかかわらず、おのずとそうなる受身的使役である。「招かれざる客 → 招かれざる客」も同様で、する行為よりは受け手の立場、そうなる

1) それゆえ、「客に購買欲をそそらせる」とはあまり言わない。「すてきな品物に購買欲をそそらせる」「うまそうな臭いに食欲をそそらせる」と、～ニ格には「そそらせる」元凶のモノが来る。ニ格は「ニ対シテ」ではなく「ニヨツテ」なのである。

状態が尊重されているのである。

日本語教育の現場において、受身や使役を扱うとき、とかく西欧語的発想の受身・使役の練習にのみ終始し、能動・受動の言い換えなど、機械的な操作ばかり行なうきらいがあるが、もっと日本語の受身表現・使役表現を扱い、日本語ではどのようなとき受身や使役の言い方をとるのか、受身や使役で表現された場合はどのような情感がこめられているのか、などを教える必要があるであろう。

II. 受身表現の種類

日本語の受身表現を、形式面から分類すると、次の 10 種類になる。(V は動詞を表わす)

第1種の受身

- ① Aガ 自V → (Bハ) Aニ 自Vレル
- ② Aガ Cヲ 他V → (Bハ) AニCヲ他Vレル
- ③ AガBノCヲ 他V → BハAニCヲ 他Vレル
- ④ AガBニCヲ 他V → BハA_カニCヲ 他Vレル
- ⑤ AガBニ 自V → BハA_ニカ_ラニ_ヨッテ 自Vレル

第2種の受身

- ⑥ AガCヲ 他V → CハAニ 他Vレル
- ⑦ AガCヲ他Vテイル → CハAニ 他Vレテイル
- ⑧ AガCヲBニ 他V → CハA_カニBニ 他Vレル
- ⑨ (Aガ) Cヲ 他V → Cガ 他Vレル
- ⑩ (Aガ) CヲBニ他V → CガBニ 他Vレル

各形式の用例

- ① 雨ガ降ッタ → (私ハ) 雨ニ降ラレタ
- ② 隣ガ2階ヲ建テタ → (私ハ) 隣ニ2階ヲ建テラレタ
- ③ 兄ガ私ノ手紙ヲ見タ → 私ハ兄ニ手紙ヲ見ラレタ
- ④ 母ガ私ニ仕事ヲ頼ンダ → 私ハ母ニ仕事ヲ頼マレタ

- ⑤ 政治ガ経済ニ影響スル → 経済ハ政治ニ影響サレル
- ⑥ 犬ガ私ヲカンダ → 私ハ犬ニカマレタ
- ⑦ 海ガ日本ヲ囲ンデイル → 日本ハ海ニ囲マレテイル
- ⑧ 皆ガ私ヲ代表ニ選ンダ → 私ハ皆カラ代表ニ選バレタ
- ⑨ (人々ガ) 個性ヲ尊重スル → 個性ガ尊重サレル
- ⑩ (神ガ) 能力ヲ我々ニ与エル → 能力ガ我々ニ与エラレル

①⑤ は自動詞の受身、その他はすべて他動詞の受身である。第1種の受身の形式的特色は、能動表現では主格だった「～ガ」が、…ニヨツテの意の～ニ格に変じ(A ガ→A ニ)、受動者たる～ハ主語として常に「B ハ」を立てる。他動詞の目的語「C ヲ」は、受動態でもそのまま～ヲ格として残る(C ヲ→C ヲ)、という3点である。

これら第1種の受身形式は、いずれも主語に被動者「B ハ」が立ち、しかも、そのBは、⑤を除けば例外なく人間(または有意志物)が来る。たとい能動態では被動者の意識されない①②でも、受動態では必ず「B ハ」の形で意識の底に潜む。言うなれば、被動者を意識し、被動者の側に立つことが、第1種の受身表現を成り立たせているのである。

①および②は、動作主の行為・作用そのものは被動作者とは無関係に行なわれている。雨は我々とは無関係に降るのであり、隣は勝手に2階を建てているのである。それを、こちらが被動作者と意識するところに受身表現が成立し、「私ハ…/彼ハ…」の被動作者側に立った被動作者中心の表現を成立させる。自己と無関係に行なわれる行為・現象が、間接的にこちらに影響を及ぼしていると意識し迷惑がる気持ちで、「迷惑の受身」と呼ぶ。はなはだ主観的な受身である。③～④も、被動物として～ヲ格に立つC(手紙や仕事)を主語にすえず、常に間接の被動者たる人間中心に「B ハ」の受身表現がなされている点は共通する。相手の行為の影響を受ける自己を被害者と意識する「被害の受身」であり、そのため、迷惑の気持ちや、時としては恩恵の気持ち(「負うた子に浅瀬を教えらる / 仲人に手を取られて退場する」のようにテモラウと置き替え可能な受身)などの

情意を帯びる場合が多い。ただ、受身の行為が直接被動者側に関係を持つ点、①②に比べより客観的な受身である。第1種の諸形式は、人間を主語に立て、被動人物の側に立った受身であるところに特色がある。

第2種は他動詞に付き、他動詞の目的語Cを主語として立てた受身である。すなわち、動作をしかけるものAと、動作を受けるものCとがあり、後者を主語とする直接的受身である。第1種の受身に比べてはるかにドライな西欧語的受身であり、本格的受身、単純被動の受身でもある。動作を受けるものCを、有情・無情の関係なく主語にすえるため、被動物物によっては必ずしも人間主体の受身とはならない。いわゆる「非情の受身」と言われるもので、無生物や抽象的概念すら主語になることもある。ヒトなどが主語に立つ有情物の場合は歴史的にも用例が多いが、モノ・コトなど非情物の場合は、古典語では例が少ない。西欧語の影響で特に近代になってから多用されだした受身形式である。

III. 各受身形式の特色

① Aニ自Vレル形式（雨ニ降ラレル）

② AニCヲ他Vレル形式（隣ニ2階ヲ建テラレタ）

他者の動作・作用の結果が、ある影響を自分のほうに与える言い方である。自分の力では防ぎようのない、相手側の一方的行為・作用に対して用いられ、間接的にその影響を受ける人間が、主語として立つ。動作・作用の利害関係を表わすところから「迷惑の受身」という名称を与える。迷惑意識が強く、心理的受身として、情意的な陰影の濃い、はなはだ日本的な受身である。（①②の受身には多く不快感や満足感が伴う。）自動詞にも他動詞にも付くが、①自動詞に付けば動作・作用の利害関係を表わし、②他動詞に付けば動作・事象の間接的受身となる。

○君も現実離れしたそういう夢をみているから女にも逃げられたりするんだ。(90)⁴⁾

①の受身として用いられる自動詞には

「子に死なれる / 泣か～ / 行か～ / 客に来ら～ / 家に上がり込ま～ / 席に坐ら～ / 女に逃げ～ / 従業員に休ま～ / 泣きつか～ / 雨に降ら～ / 雨にたたら～」

等の動作動詞が挙げられる。元来、受身とは「だれかに何かをされる」という、行為者を有情物と見ての表現であり、それゆえ他動詞が多い。自動詞の場合は、生物が行為者である例が多く、たとい無情物であっても、これを人格的に扱う。「雨に降られた」も、雨自体が人為でなく、自主的に降る現象であるからこそ ① の受身が言えるのである。本来動作を行なわないもの、たとえば石などは「石に落ちられた」とは言えない。

○こう自動車に通られちゃかなわない。

これも、背後に機械を操る人間が予想され、走ることを本性とする機械だから ① の受身表現が可能なのである。有情物「妻に寝込まれた / 死なれた」は可能でも、無情物「自動車にエンコされた / 故障された」などの受身は成立しにくい。「自転車にパンクされた / トラックにエンストされた」などとは言わないであろう。

自動詞の受身は、他動詞の受身とは発想に根本的な違いが認められる。自他同形の動詞(たとえば、吹く)においては、これを自動詞の受身とするか他動詞の受身とするかで、意味に相違が出てくるのである。

風が吹く → (桜の季節だというのに) 風に吹かれた。

風が私を吹く → 私は風に吹かれて散歩する。

前者の自動詞の受身は ④「迷惑の受身」であり、自然現象として桜とは無関係に風が吹いたのを、話し手が勝手に迷惑がっているのである。風が吹くことと桜の花とは本来因果関係を持たず、話し手の主観で結びつけられたにすぎない。いっぽう後者 ⑥ の他動詞の受身は、「風に当たって…」と自動詞表現に置き替えることもできるふつうの受身形式で、こち

1) ページを()で示した用例は、新島正「ユーモア」(潮文社新書)から引用したもの。この書はかつて語研の日本語教育で、上級教材として使用されたことがある。

らの意志で進んで風に吹かれているのである。

③ BハAニCヲ他Vレル形式 (私ハ兄ニ手紙ヲ見ラレタ)

この③および次の④は、先の②とともに「BハAニCヲ…」の同形態受身表現である。文型としては同形であるが、A・B・Cの意味関係を異にし、能動態に戻した場合、3者の違いは歴然とする。②③④は形態は同じでも、表現形式を異にする別種の受身表現と考えるべきであろう。文型を単に形態上からのみ分類することへの戒めとしたい。

さて、③形式は、～ヲ格に立つCの所有者または主体者Bを受動者と考え、Bの側から見た間接的受身表現である。「私ノ手紙ヲ」なら所有者として「私」を、「彼等ノ心ヲ」なら主体者として「彼等」を受動者に見立て主語にすえた受身表現である。

○(彼等ハ)ただ1つの標的に心を釘づけにされて一目散に走り出す。
(69)

「彼等の心は釘づけにされて…」と「心」を受動者に見立てることも可能なわけである(⑥ 非情の受身)。なお、③形式は

○新婦は仲人に手を取られて退席した(←仲人が新婦ノ手ヲ取ル)のように「取ッテモラッテ」の意の恩恵の受身になる例も見られる。また、③にはまれに非情物が受動者となる例も見られる。これは擬人法と考えるべきである。

○横浜は日本の表玄関であったが、羽田にその地位を奪われた。

④ BハAニCヲ他Vレル形式 (私ハ母^ニカラ仕事ヲ頼マレタ)

筆者の調査では、受身用例318例のうち34例を占め、11%強。受身10形式中では使用率3位で、かなり使用度の高い受身形式である。この形式は、能動者を～ニ格で示す以外に、～カラ格でも示し得る点に特色がある。(まれに、～ニヨリ/～ニヨッテも用いられる)「ニ」を「カラ」と置き替え得るところから考えると、④の受動行為はかなり直接的で動作性が強いらしい。先の①～③は、相手方の行為・作用が結果的にこちらを受動者たらしめるという間接的なものであったが、この④は相手方から

積極的にこちらに働きかけるという直接的動作を表わす場合が多い。そのため述部に立つ動詞も、対人関係を前提とした動詞、「AさんからB氏に」への動作・行為を表わす他動詞に限られる。この形式には「負うた子に浅瀬を教えられる」のように、恩恵の受身となる例も見られる。格助詞～ニは、～カラ、～ニヨッテの言い換えも可能である。

○自分がこれらの病友たちによって、どれだけ心の慰安と希望を与えられていたかということ (34)

の例は～ニ / ～カラいずれにも置き替えが可能であるが、～ニヨッテを用いているため、かなり間接的・消極的受動行為となっている。

○主人は散歩の道すがら会った乞食に施しを求められて、ポケットをさぐった。(204)

～カラとの置き替えは可能だが、～ニヨッテとは不可。それだけ直接的動作性が強い。

⑤ BハAニ自Vレル形式 (経済ハ政治ニ影響サレル)

自動詞が述語に立つ受身であるが、①と違って迷惑意識を持つとはかぎらない。「経済」の例のように非情の受身も見られるが、多くは人対人の受身である。述部に立つ動詞は対者対物関係を構成する自動詞で、「AさんがB氏に...する」という「～ニ対シテ」の意の格助詞「ニ」を取る自動詞である。そのため⑤もかなり間接的な被動であり、迷惑や期待・歓喜の気持ちをもつ場合が多い。

「...に影響される / 飽きられる / ひらきなおられる / 迫られる / かけ寄られる / 接近される / 呼びかけられる / 働きかけられる / 誘いかけられる / 言いよられる / 反対される / 反撥される / 閉口される / 頼られる

等、数はそう多くない。

○悪とは何か、とひらきなおられたら、返答ができない。(27)

○かんとんに得られるものは、かんとんに飽きられる。(106)

⑤の受身文型は、発想から言えば次の⑥形式と差はない。

政治ハ経済 {ニ影響スル→経済ハ政治ニ影響サレル……⑤
 ヲ左右スル→経済ハ政治ニ左右サレル……⑥

事実「彼女ニ／彼女ヲ誘イカケル」「先輩ニ／先輩ヲ頼ル」などは受動態では同形となってしまう、⑤⑥の見分けはつかぬ。

⑥ CハAニ他Vレル形式（私ハ犬ニカマレタ）

採集用例数 111 例。使用率 35% で、⑨形式について第2位。この⑥には

○場内が笑いにつつまれたことはいうまでもない。(8)

のように非情の受身が多く、第1位の⑨形式と合わせれば、現代日本語の受身形式にはいかに非情の受身が多いか想像がつかう。

この形式は、ニ格が「…ニヨッテ」の意を表わし、省略すると文意が不明瞭になってしまうため、必ず「Aニ」が文面に現われる点、特徴的である。(この点が、あとの⑨⑩形式と異なる。)

○君はかんたんにアメリカの宣伝に魅せられてしまっている。(90)
 「君は魅せられてしまっている」では、文意として不十分である。ニ格のかわりに「～ニヨッテ／～ニオイテ／～デ」等の用いられることもある。

○意見によって出来たものは、やがてまた意見によってこわされる宿命をもっている。(91)

○多くの犠牲において進められたものではなかったか。(62)

CはAによって直接…される犠牲者的意識が根底にあり、典型的な被害の受身形式である。物理的行為による肉体的な被害のほか、モノ・コトを主語とする直接作用の現象的被害も多い。

⑦ CハAニ他Vレテイル形式（日本ハ海ニ囲マレテイル）

文型的には前の⑥と同じであるが、被害の受身とはならず、純粋に文法上の理由から受身となる形式である。「他動詞＋テアル」を「自動詞＋テイル」に置き替える場合、(例 戸ガシメテアル→シマッテイル)、対応する自動詞を欠くとき、他動詞を受身形にして自動化させ、テイル表現を

行なう。

他動詞＋テアル → $\begin{cases} \text{自動詞＋テイル} \\ \text{他動詞＋受身＋テイル} \end{cases}$

この受身形式をとることにより、婉曲的な断定として客観性・普遍性を帯びる。したがって 普遍性・一般性を要求する公的文章(新聞記事, 論説文など)では、ことさらこの他動詞＋受身テイル形式を用いるようである。(この種の言い方を許す他動詞は、多く目でとらえ難い現象、「言う / 述べる / 触れる / 論議する / 宣伝する / 買う / 売る / 書く」等, 社会的事実を表わす動詞に多いようである。)

○私たちの平面的生活においては、目的というものは、...方法の先にあるものとして考えられている。(53)

○これではなければいけないという一つの道に限られていない。(67)

テイルを省いても意味に変わりはない。

○オリンピックは参加することに意義があるといわれる。(70)

対応する自動詞があるにもかかわらず、この受身形式を用いることは避けたい。

○彼らの人生における目的は、30 年 50 年後の将来の一点にかけられており。(63)

自動詞「かかっており」を用いるべきところである。

「...ラレテイル」が連体修飾句として以下の体言に係っていく場合もまったく同じことが言える。「隠シテアル部分 → 隠レテイル部分」と他一自対応するにもかかわらず、他動詞を受動態にして「隠サレテイル部分」となすたぐいである。

○所要所要所の交番に出されている交通事故についての揭示 (59)

「出ている揭示」でよからう。修飾形の場合も、目でとらえ難い行為の動詞に多い。

○私たちの脳裡に刻みつけられている数多い歴史上の人物。(70)

⑧ CハA_{カラ}Bニ他Vレル形式 (私ハ皆カラ代表ニ選パレタ)

先の ⑥ 形式は、…ニヨッテの意のニ格を取るため、はなはだ直接的な受動作用であった。用いられる動詞も

かまれた / なぐられた / 刺された / (車に) ひかれた / 押しつぶされた
等、対象への直接的・物理的な作用や行為を表わす動詞が多い。一方、⑧形式は

言われた / 笑われた / ほめられた / 選ばれた
等、間接的動作を表わす動詞が述語に立ち、ニ格のみならず、カラ格も可能である。それだけ能動者・受動者間に距離が置かれていると見られる。しかも、能動者がヒトの場合、ニ格を省略することが多い。

○宗教に関心を示さぬ輩は(人々カラ / ニ)人間の片隅にもおけぬ馬鹿者にされてしまう。(138)

あとのニ格(下点を付したニ)は「ト」となることもある。

○特定の個人が問題とされるとき (138)

○〇氏は周囲の人たちから自然随順の聖者といわれるほど静かな人柄だが (191)

⑨ Cガ他 Vレル形式 (個性が尊重サレル)

⑩ CガBニ他 Vレル形式 (能力が我々ニ与エラレタ)

両形式は、～ヲ格に立つ目的語を受動者と見たてたときの表現で、(Cヲ→Cガ)ガ格の受身形式を構成するところに特徴がある。

○戦いが何日もしつように続けられた。(192)

～ハ主語の例はきわめて少ない。

○そのような信仰は今日失われている。(183)

対比強調の「ハ」か、主語と動詞との間に他語が挿入される場合か、または

○個性はその時代にはまだ尊重されていなかった。

のような否定表現となる場合である。

⑩ 形式は、「我々」を～ハ主語に立てて「我々は能力を与えられた」(④形式)と表現することも可能な内容である。それを ⑨ 形式と同様、～ヲ

格に立つ抽象名詞を～が主語に立て(例 能力ヲ→能力が)、非情の受身としたものである。この受身形式は、～ニ格が「…ニヨotte」ではなく「…ニ対シテ」の意味である点、他形式と異なる。

○身動きも出来ない観念の系列が厳しい批判の目にさらされることになった。(18)

述部に立つ動詞は、対人・対物関係を取り得る動詞である。

⑨ 形式は318例中123例、使用率39%で、全受身形式中で第1位を占める。我々が日常使う受身の4割弱が⑨の非情の受身だということになる。国語史的に見て、非情の受身は比較的新しい形式のため、とかく軽んじられがちであるが、我々が目にし耳にする受身の約4割がこの種の受身であるという事実に着目して、日本語教育の現場でももっと大きくとりあげ、しっかりと教えこむ必要がある。「非情の受身は本来日本語的発想でない」として「好ましくない日本語」「西欧語的発想の日本語」とすることへの反省としたい。

⑨ 形式の非情の受身が多用されるといっても、主語C(受動物)になり得る語にはある種の傾向と制約が見られる。「額が掛けられた / 電気がつけられた」式のモノ主体の例は案外と少ない。筆者採集の用例では、次のような語種に片寄りが見られる。圧倒的に多いのが抽象名詞(抽象概念を示す語)。その他「…する / …という / …ような」等を形式名詞「わけ / こと / もの / の」などで受けた形。指示代名詞「これ / それ」等がおもなものであった。モノ主体では、

「記念切手が発売された / ××カラットのダイヤが売りに出された / 新葉が発見された / 人工衛星が打ち上げられた / 処女作が出版された」

等、新たにコトが起こる、またはモノが世に出される場合に、しばしばこの⑨形式の非情の受身を用いるようである。その他「源氏物語は平安時代に書かれた / 源氏物語が書かれた時代」のような過去の事実にも用いられる。次に、抽象名詞を主語とする例を列挙しよう。

「意味が示され / 価値が見出され / 考えが受け入れられ / 感慨が深めら

れ / 観念が偶像化され / 感動が秘められ / 希望がこめられ / 軌道が修正され / 苦勞が報いられ / 芸術が否定され / 傾向が見られ / 個性が尊重され / 答えが出され / 心が動かされ / 信仰が失われ / 資格が与えられ / 事実が明らかにされ / 思想が生かされ / ...の世界が描き出され / 生命がおびやかされ / 戦いが続けられ / 大会が開かれ / タブーが犯され / 伝統が破壊され / 淘汰が行なわれ / 問いが発せられ / 人間が尊重され / 秘密があばかれ / 批判がなされ / ...の眼が向けられ / 問題が提示され / 歴史が繰り返され / ...というわけが見出され / 文明の危機ということが叫ばれ / あらゆるものが量産化され」

受身の修飾形

⑨ の非情の受身が連体修飾句をなす場合には、受身があってもなくても意味に差を生じない。「2 人の間で戦わされる意見」は「戦わす意見」と意味的に違いはない。

○来週売り出す記念切手 / 売り出される記念切手

これら 2 つの表現形式は、能動表現「記念切手を売り出す」の修飾形式と並行して、⑨ の非情の受身の修飾形式も行なわれるようになったところから生じた 2 通りの言い方であろう。それゆえ、⑨ 形式以外の受身では、たとえ修飾形式をとっていても、能動・受動で意味に差を生じてしまうことが多い。⑨ の修飾形式の例を挙げておく。

○信念に強いということは尊ばれる(尊ブ)べきことである。(25)

○無限の曲折と交錯の深みから奏で出される(奏デ出ス)シンフォニー。
(206)

○見ず知らずの人間同志の間で交わされる(交ワス)交歓。(213)

「タ」を伴う例も多い。これも被害の受身だと、意味差を生ずることが多い。

殺シタ人 → 殺サレタ人

「殺シタ人」を被害者と見れば両者の意味は同じだが、加害者と見れば違ってしまう。非情の受身なら両者同じとなる。

○ヤミ買いによって作られた(作ッタ)料理 (42)

○過去から受けつがれた(受ケツイダ)もの (18)

○同病相憐むという言い古された(言イ古シタ)言葉 (34)

受身+テアル形式

⑨の非情の受身形式は、まれに「他動詞+テアル」に対応する表現形式として使用される。本来、「他動詞+テアル」に対応する形式は「自動詞+テイル」である(例 立テテアルー立ッテイル)。それが他動詞と相対する自動詞を欠く場合、他動詞に受身を添えることによって自動化させ、それにテアルを付ける。

他動詞+テアル → $\begin{cases} \text{自動詞+テイル} \\ \text{他動詞+受身+テアル} \end{cases}$

この種の言い方を許す他動詞は、多く目でとらえられる現象の動詞に限られるようである。(目でとらえ難い現象の動詞は ⑦「他動詞+受身+テイル」形式となる。27 ページ参照のこと。)

○友人からの手紙には...ということなどが書きつけられてあった。(205)

他動詞「書ク」に対する自動詞がないため生じた言い方で、「書キツケテアッタ」に対応する。相対する自動詞があるにもかかわらず、この受身+テアル形式を用いることは避けたい。

○ほの暗い冷蔵庫の中に立てられてあった1個の氷柱 (41)

○「雖千万人吾往」という自筆の額がかけられてあった。(35)

前者は「立テテアッタ→立ッテイタ」に、後者は「掛ケテアッタ→掛カッテイタ」にすべき文である。対応する自動詞があるのだから、何も他動詞+受身を用いる必要はない。悪文といえる。受身+テアルの言い方は、⑨の非情の受身に属するが、心理的な発想に起因する受動表現ではない。文法上の理由による形式的な受動表現である。(ただし、現在ではこのような受身+テアル形式の言い方はほとんど行なわれていない。「他動詞+受身+テアル」形式をとる動詞が、目でとらえられる現象の動詞に

限られるということ、つまり具体名詞が主語となる場合に限られるということ、非情の受身が抽象名詞に多いという事実とが、互いに相入れない特徴だからであろう。)

IV. 使役表現の種類と用法

日本語の使役表現・他動表現を形式面から分類すると次の8種になる。

第1種の使役

- ① Cが自V → BがCヲ他V₁
- ② Cが自V → BがCヲ自Vセル
- ③ Cが自V → BがCニ自Vセル

第2種の使役

- ④ BがCヲ他V₁ → AがBニCヲ他V₂
- ⑤ BがCヲ他V₁ → AがBニCヲ他V₁セル
- ⑥ BがCヲ自Vセル → AがBニCヲ自Vセル

第3種の使役

- ⑦ AがBニCヲ他V₂ → DがAニ、BニCヲ他V₁セル
- ⑧ AがBニCヲ他V₁セル → DがAニ、BニCヲ他V₂セル

各形式の用例

- ① 乗客が降りタ → 車掌が乗客ヲ降ロシタ
- ② 乗客が降りタ → 車掌が乗客ヲ降りサセタ
- ③ 乗客が降りタ → 車掌が乗客ニ降りサセタ
- ④ 電気屋がテレビヲ見タ → 彼が電気屋ニテレビヲ見セタ
- ⑤ 車掌が乗客ヲ降ロシタ → 運転手が車掌ニ乗客ヲ降ロサセタ
電気屋がテレビヲ見タ → 彼が電気屋ニテレビヲ見サセタ
- ⑥ 車掌が乗客ヲ降りサセタ → 運転手が車掌ニ乗客ヲ降りサセタ
- ⑦ 彼が電気屋ニテレビヲ見セタ → 父が彼ニ(命ジテ)電気屋ニテレビヲ見サセタ
- ⑧ 彼が電気屋ニテレビヲ見サセタ → 父が彼ニ(命ジテ)電気屋ニテレビヲ

見セサセタ

第1種 ① ② ③ は B から C への動作関係を表わす他動・使役表現の基本形式である。この ① ② に ③ を代入することにより、C に対する A から B への動作関係が生まれ、第2種 ④ ⑤ ⑥ 形式とし表わされる。このうち ④ は他動詞₂を持つもの(たとえば「見エル / 見ル / 見セル」の「見セル」)に限られ、「降ル / 降ロス」のような他動詞₁しか持たぬ場合は ④ ⑤ の他動詞₂表現は存在しない。

① B ガ C ヲ他 V₁ 形式

「C が自動詞」文型で表わされる行為・作用・変化などの実現が、B の力で行なわれると認定されるとき、① 形式の文型が成立する。(もちろん「見エルー見ル」のように、自動詞が状態動詞の場合は、これに該当しない。)この文型は、目的語 C に

犯人が見つかる → 警官が犯人を見つける

手紙が届く → 郵便屋が手紙を届ける

病気がなおる → 医者が病気をなおす

縁が切れる → 夫が縁を切る

のように、ヒト・モノ・コトいずれの例も見られ、さらに

世話が焼ける → 女中が世話を焼く

のような慣用句の例も見られる。しかし、自一他の対応する動詞の場合は、モノ・コト(非情物)の用例が多く、ヒト・動物(有情物)の例はどちらかと言うと少ない。ヒトの場合には、自動詞にセルを付けて他動化させ、② の有情者対象の表現を行なうからであろう。ヒトなら「生徒を立たせる」で、「立てる」とは言わないのである。対応自動詞があるにもかかわらず、① の他動詞文型で有情者を表わす言い方は、そう多くない。

「親が子供を育てる / 社長が社員を減らす / 学校が生徒をふやす / 大学が受験生を落とす / 巡査がまいごを見つける / 先生が生徒を当てる」

① 形式は、対応自動詞を欠く場合はヒト・モノ・コト、自一他対応する場合はふつうモノ・コトを対象 C にすえて「B ガ C ヲ他 V₁」表現を行

なう。しかも、この文型は「Cガ自V」となることをBが直接行なうといった意味合いが濃い。「子供を育てる」は「子供が育つ」よう親が直接手を下して行為するのである。モノ・コト対象はもちろん、ヒト対象の場合も、①の他動詞表現しか成立しない用例は、みな主体者Bの直接的行為の実現である。

② BガCヲ自Vセル形式

行為の対象Cがヒト(有情者)の場合、対応自動詞があれば、ふつう自動詞にセル/サセルを付けて②の他動表現を行なう。「立つー立テル」の場合、モノなら①「旗を立てる」、ヒトなら②「生徒を立たせる」と使いわけ、「旗を立たせる/生徒を立てる」とは特殊な場合以外は用いない。有情・非情どちらも目的語となし得る動詞は、自他の対応がある場合、①②の使い分けはかなり厳格に行なわれている。

① 非情、② 有情の使い分けをしている例

扇風器を回すー小僧を回らせる

毛を抜くー(遊びで)子供を抜けさせる

花びんを倒すー俳優を倒れさせる

金を隠すー子供を隠れさせる

話を続けるー(行列で)前の人に続かせる

旗を立てるー生徒を立たせる

その他「出スー出サセル/起コスー起キサセル/曲ゲルー曲ガラセル/伝エルー伝ワラセル」等。

Cが有情にもかかわらず、①②両文型可能な例

「生徒を残すー残らせる/通行人を通すー通らせる/子供を隠すー隠れさせる/生徒を並べるー並ばせる/足をひっぱって沈めるー沈ませる/客を乗せるー乗らせる/客を降ろすー降りさせる/客を上げるー上がらせる/通行人を止めるー止まらせる/人を集めるー集まらせる/人を暖めるー暖まらせる/社長を替えるー替わらせる/新手を加えるー加わらせる」

たとえば ①「運転手が子供をのせる」は、「子供が乗る」ことを命令する、しむける、許可する等の場合にも、また、子供を抱え上げてのせてやる場合にも用いられる。①は直接的行為ではあっても、その行為の仕方には幅が認められる。とはいっても ①がモノ・コトに多く用いられる文型であることからわかるように、C に対する B の一方的働きかけである。①は、B の行為行動の実現を問題とする表現意識で、C 側の意志・行動・結果は強調されない。「子供をのせる」は、子供を車上の人ならしめる運転手の行為・行動の実現を述べているにすぎない。

このことは非情物の場合にもっともよく示される。

① コロンブスが卵を立てた。

② コロンブスが卵を立たせた。

①は「卵を立てた」という客観的事実、コロンブスの他動行為の実現を端的に叙述したもの。②は本来立つべきでない卵をいろいろとくふうして立てることに成功したという、対象 C をある状態にならせることへの実現を述べる。「科学者が雨を降らせる」「鳴かぬなら鳴かせてみせようホトトギス」いずれも不可能を可能ならしめる意識が潜む。それゆえ、①は、B が C を本来そうなり得るはずの状態にする意識であり、②は本来そうなり得ない、そうなりにくい、またはそうなることを予想していない状態を、B の意志で実現に導く、という意識である。この意識が、B の意志で実現させる〈使令〉、実現をしむける〈誘発〉、実現を認める〈放任・許容〉などの派生的意味を生む。たとえば、①文型「...ヲ立テル」は

「旗を立てる / 立札を～ / 尻尾を～ / 青筋を～ / 水煙を～」

のように、立てる対象物は、本来立ち得るもの、立つことが予想できるもので、それに対する他動的行為にすぎないが、②文型「...ヲ立たセル」は

「卵を立たせる / 茶柱を～ / (奇術で) 皿を載せた棒を～」

のように、立ちにくいもの、立つ必然性の薄いものを行為者の意志で実現に導くという場合に用いられている。C が...となるように、または...

するように B がしむけるのであり〈使令〉、これに「～テオク」が付けばく放置〉の意が加わる。もっとも、非情物の場合

「成金が札束をちらつかせる / ふところから短刀を覗かせる / 頭を働かせる / 目を楽しませる / 歯をカチカチ言わせる」

のような、B の C に対する一方的行為、単なる〈他動性〉しか示さぬ例もある。対応他動詞を欠く場合、「自動詞＋セル」は他動性となりやすいのである。

およそある状態の実現には、次の諸段階が認められる。

ア. 対象に対する行為主体の一方的な働きかけ、積極的な直接行為。〈他動性〉

非情……口を楽しませる / 札束をちらつかせる

有情 ——

イ. 対象がそうなる、またはそうするようしむける積極的ではあるが間接的行為。〈使令〉

非情……科学者が雨を降らせる / コロンブスが卵を立たせる

有情……夫が妻を働かせる

ウ. 対象がおのずとそうなる、またはそうするよう対象の変化や行為の実現のきっかけを作る。消極的な間接行為。〈誘発〉

非情 ——

有情……親を悲しませる / はらはらさせるね / 笑わせるな……(不随意)

エ. こちらは何もせず、ただ対象自体の変化や行為や現状を放置・放任しておく。意識的ではあるが消極的な容認。〈放置・放任〉

非情……セメントを固まらせる / めしを腐らせてしまった / へやを遊ばせておく……(放置)

有情……子供を遅くまで遊ばせておく / 泣きたいだけ泣かせる……(放任・許容)

オ. 対象がそうなる、またはそうすることが、こちらとは無関係に行なわ

れ、結果的にこちらの責任・手柄・短所・長所などとなる。主体 B の無意識・不干渉要因。ただし、C の行為や結果を B 側の責任や手柄として、B の意識的な働きかけと見なすところにこの表現の存在意識がある。〈責任・手柄〉

非情……読ませる小説 / 聞かせるのだ

有情……むすこを一流大学に合格させた / 子供を死なせてしまった

カ、自然的現象や自発的現象として、ある原因 B が必然的に C にある結果を引き起こす、不可抗力的現象。〈因果関係〉

非情……設計ミスが飛行機を墜落させた / 運命のいたずらが彼の人生を狂わせた / 小さな穴が堤防を決壊させた

有情……強いショックが彼を狂わせた / 失言が大臣を失脚させた

③ B が C 二自 V セル形式

この③形式は～ニ格をとることにより、C が自己の意志で××する(自動詞)ことを B が許容したり命じたりする意識を持つ。被使役者 C の意志による、C から B への働きかけに対しての、B の消極的な〈許容〉か、積極的な命令〈使役〉かのいずれかの場合である。

○いつも太郎で気の毒だから、たまには次郎にも行かせよう。

行くのがうれしいことなら、次郎に対し気の毒で、「行かせる」は「行かせてやる」の許容ないし恩恵賦与となる。また、行くのがいやな場合なら、太郎に対し気の毒で、「行かせる」は次郎への使役となる。いずれにせよ③文型は、～ニ格をとることにより、B から C への一方的働きかけではなく、C の意志・主体性を認めた言い方となり、C から B への働きかけを前提とする場合が多い。そのため「に」の代わりに「から」を用いた例も見られる。

○禁酒論者にいわせれば (92)

○肉の嫌いな人からいわせれば (92)

③文型が、被使役者 C の主体性を認める許容、または認めたうえでの使役を表わすところから、対象 C には本来主体性をもつ有情者(有意志性

のもの)が立ち、述語動詞も有情者を目的語にとり得る動詞が来る。①②

③ すべて可能な、自-他セットをなす動詞としては

残らせる / 通ら～ / 帰ら～ / 隠れ～ / 従わ～ / 並ば～ / 乗ら～ / 逃げ
～ / 降り～ / 上がら～ / 止まら～ / 集まら～ / 暖まら～ / 伝わら～ / 代
わら～ / 加わら～

等があり、②③ 文型のみ可能な動詞としては

回らせる / 抜け～ / 倒れ～ / 続か～ / 曲がら～

等が挙げられるのであるが、これらの動詞も③「C=自 V セル」文型の
場合は、Cに有情者が立つのがふつうである。同じ動詞でも、目的語の非
情か有情かによって、取り得る文型が限定されるのである。

- | | | |
|----|---|--------------------|
| 立つ | { | ① 卵を立てる / —— |
| | | ② 卵を立たせる / 生徒を立たせる |
| | | ③ —— / 生徒に立たせる |
| 並ぶ | { | ① 基石を並べる / 生徒を並べる |
| | | ② —— / 生徒を並ばせる |
| | | ③ —— / 生徒に並ばせる |
| 働く | { | ① —— / —— |
| | | ② 勤を働かせる / 妻を働かせる |
| | | ③ —— / 妻に働かせる |

また、「起きる-起こす」のように、文型や目的語によって動詞の意味
に差をきたす例も見られる。

- ① 倒れた木を起こす(立テル)
寝ている子を起こす(目覚メサセル)
- ② 病人を起きさせる(坐臥、離床)
- ③ 病人に起きさせる(" ")

Cに非情物が立つときは、Cがそれ自体の制御で運転可能な場合か、背
後に機械を操る人間が予想される場合である。

機械に働かせる / ヘリコプターに運ばせる / コンピューターに計算さ

せる

非情物を人格的に扱っているのである。そうでない場合、②「雨を降らせる」は可能でも、③「雨に降らせる」は成立しない。これは「～テモラウ」の置き替えの可否と一致するようである。

○コンピューターに計算してもらおう / 計算させる……成立

○雨に降ってもらおう / 降らせる……不成立

有情者の場合も、②③ 文型で表現意識に相違があるのは当然である。

② むすこを行かせましょう。

③ むすこに行かせましょう。

ヲ格を取る ② は、B (話し手) の意志で C (むすこ) が行くようにしむける、または命ずる。ニ格を取る ③ は、C (むすこ) の意志で行くことを B (話し手) が許すか、または強要する。③ 文型は、B が、被使役者 C の人格を認め C の行動を許容するという意識をもつため、もし C に話し手でない話し手側のヒトが立って「～テモラウ / ～テイタダク / ～テクダサイ」等を伴うと、許容依頼や謙譲表現、恩恵強調などを表わすことになる。

○お先に帰らせてもらいます / 帰らせてください (許容依頼)

○これをもって私のご挨拶に代えさせていただきます (謙譲)

○ゆっくり楽しませてもらいました (恩恵強調)

ただし、これら補助動詞を伴わないと、許容依頼が故意的となり、自信に満ちた許容要求となってしまう。

○私に言わせれば... / 言わせると...

○わが輩にやらせれば、そんなへまなまねはしないね。

第2種 ④⑤⑥ 形式

第1種 ①② に ③ を組み合わせることにより、A・B・C 3 者の動作関係が生まれる。すなわち、① 文型に人物 A を加えれば ④⑤ 文型が生じ、

① B が C ヲ他 V_1 $\left\{ \begin{array}{l} \rightarrow ④ A が B = C ヲ他 V_2 \\ \rightarrow ⑤ A が B = C ヲ他 V_1 セル \end{array} \right.$

② 文型に A を加えれば ⑥ 文型が生ずる。

② BがCヲ自Vセル → ⑥ AがB=Cヲ自Vセル

このうち ④ は「見ル—見セル」のような他 V₂ をもつ動詞に限られ、ふつうは ⑤ 文型をとる。いずれも B が C に対して××することを A が B に命じる、または許可する場合の言い方で、A はサセ手、B はシ手、C はサレ手の関係にある。A—B 関係は ③ の関係(二格の関係)で、通常 A・B は有情者¹⁾。B—C 関係は ① または ② の関係(ヲ格の関係)で、C は有情・非情どちらでもよい。意味は B—C 関係によってきまり、① ② と同じく、誘発、放任、使役...と、各段階の例が見られる。

○瞬時に消えていく映像と違って、読書は人に物を考えさせる。(II 150²⁾
誘発、非情の使役)

○雨の降る日にかさをささないで往来を歩きたいと思ったとしても、なかなかそうはさせてくれない。(II 165 許容)

○言いたい奴には言わせておけ。(放任)

○ちか子は稲村令嬢に点前をさせて、菊治に見せようというのだろう。
(II 206 千羽鶴、使役)

○可愛い子には旅をさせよ。(使役)

○私にそこまで言わせる気か。(使役)

○この店はうまいものを食わせるよ。(手柄)

第3種 ⑦ ⑧ 形式

第2種の A・B・C 3 者の動作関係に、さらに人物 D を加えることにより、⑦ ⑧ 文型が成立する。すなわち、④ に人物 D を加えれば ⑦ が生

1) 日本語の使役表現はサセ手、シ手に有情者が立つのが本来で、「何が彼女をそうさせたか」などの言い方は翻訳的だと言われる。しかし、実際には非情の使役はかなり行なわれている。

○万緑叢中にきらめく紅一点の新鮮な印象が愛情をさえよみがえらせてくれる。
(97)

○...間違った自信になって、(ソノ自信が)慎重さを一瞬、狂わせる(朝日新聞 48.1.26)

○車は、知らず知らずのうちに足、腰を弱らせる。(朝日新聞 48.1.26)

2) 用例で II 150 のような表示のあるものは、早大語研、日本語中級教科書(新版)から引用したもの。II は第2部、150 はページを示す。

じ、⑤にDを加えれば⑧が生ずる。

④ AがB=Cヲ他V₂→⑦ DがAニ、B=Cヲ他V₁セル

⑤ AがB=Cヲ他V₁セル→⑧ DがAニ、B=Cヲ他V₂セル

ただし、他V₁しか持たぬ動詞群では、④⑧文型は作れず、⑤→⑦の他V₁表現で代用させる。

○運転手が車掌に 乗客を降ろさせた → 警官が運転手に (命じて)、車掌に乗客を降ろさせた。

いずれも、DがAに対して、BがCに××するように命ずる場合に用いられる。Dはサセ手、AはDに対してはサレ手、Bに対してはサセ手、Bはシ手、Cはサレ手である。このような複雑な関係の使役表現は実際の言語生活ではそう多くはない。

使役+テアル形式

使役のセル/サセルは、しばしば自動詞の他動化として用いられる。「～ガ自Vテイル」は、対応他動詞を持つときは「～ヲ他Vテアル」と置き替えることができる¹⁾。対応他動詞を持たぬときは、自動詞にセル/サセルを付けてテアル表現を行なうのである。形式上は②文型をとるため、Cの行為を許容・放任する意識を伴う場合が多い。

○むすこを塾に通わせてある。

○いつまでも花を咲かせてある。

対応他動詞があるにもかかわらず、この形式を用いた例も見られる。

○見張りを表に立たせてある。(立テテアル)

○子供たちを広場に集まらせてある。(集メテアル)

V. 被役表現

サセルにラレルを伴うことがある。使役の受身で、被役と呼ばれる。使役の部分は②または⑤文型をなし、ラレルを伴うことにより、サレ手・

1) 拙稿「本が置いてある」と「本を置いてある」(講座・正しい日本語 5 明治書院)を参照のこと。

受け手の立場に立つ。その意味も

○きらいな料理を無理に食べさせられた。

のような強制的被役から、

○いまさらのように感じさせられました。

のような誘発まで両極にわたるが、实例を搜してみると誘発の例がはるかに多い。使役+受身より、誘発+自発の「サセラレル」が多いわけである。

○なんとも味なことをする刑事だと感心させられる。(95)

○同病相憐という言い古された言葉を、今更のように彼はかみしめさせられた。(34)

○サザエさんの漫画によって大人の独善を反省させられたにしても
(122)